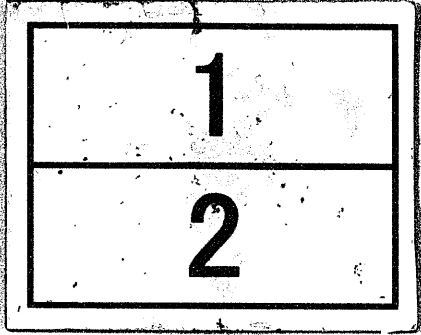
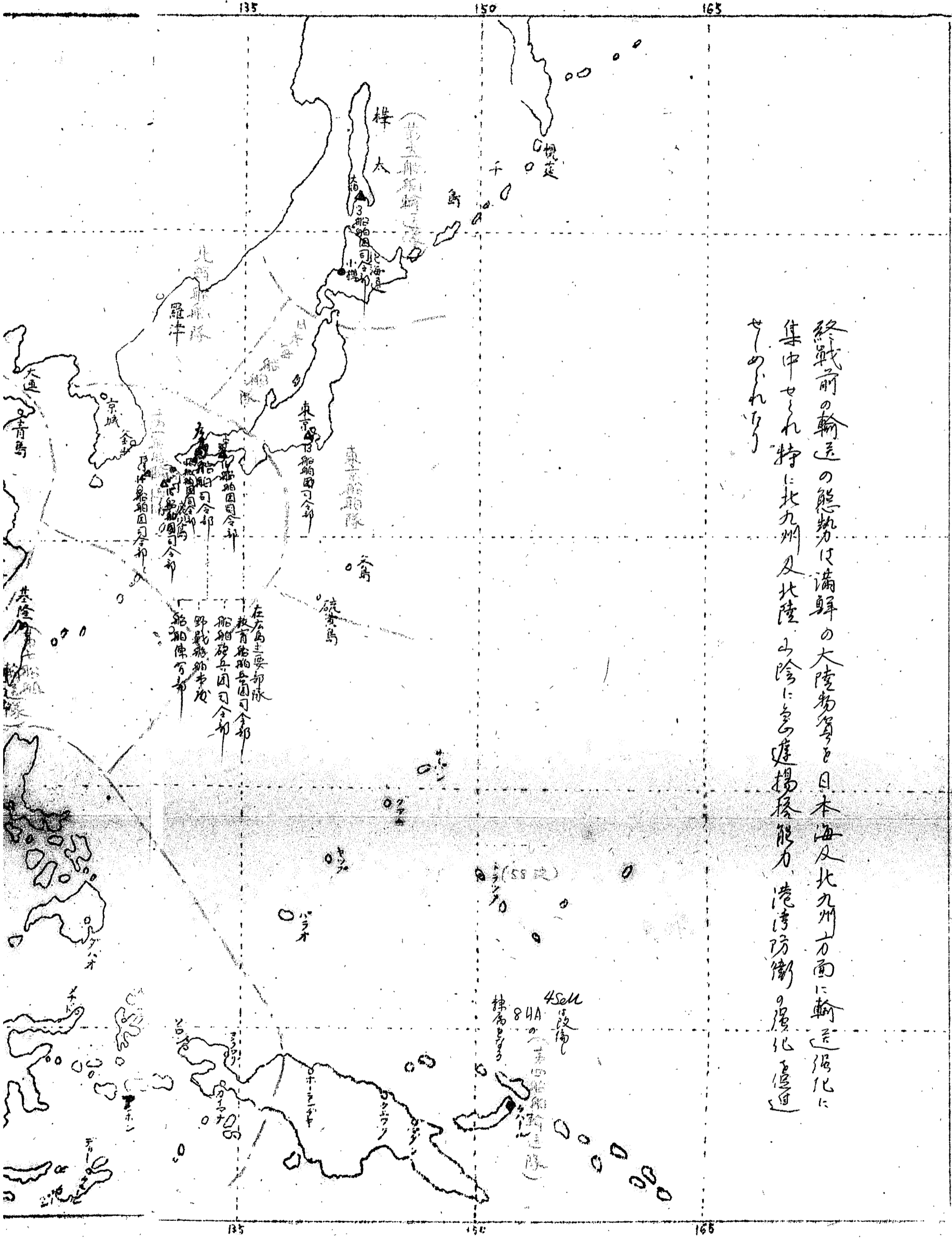


# 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 版以上のため
文書等名	終戦時に於ける船舶部隊 配置要図
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

隊部船舶に於ける終戦時

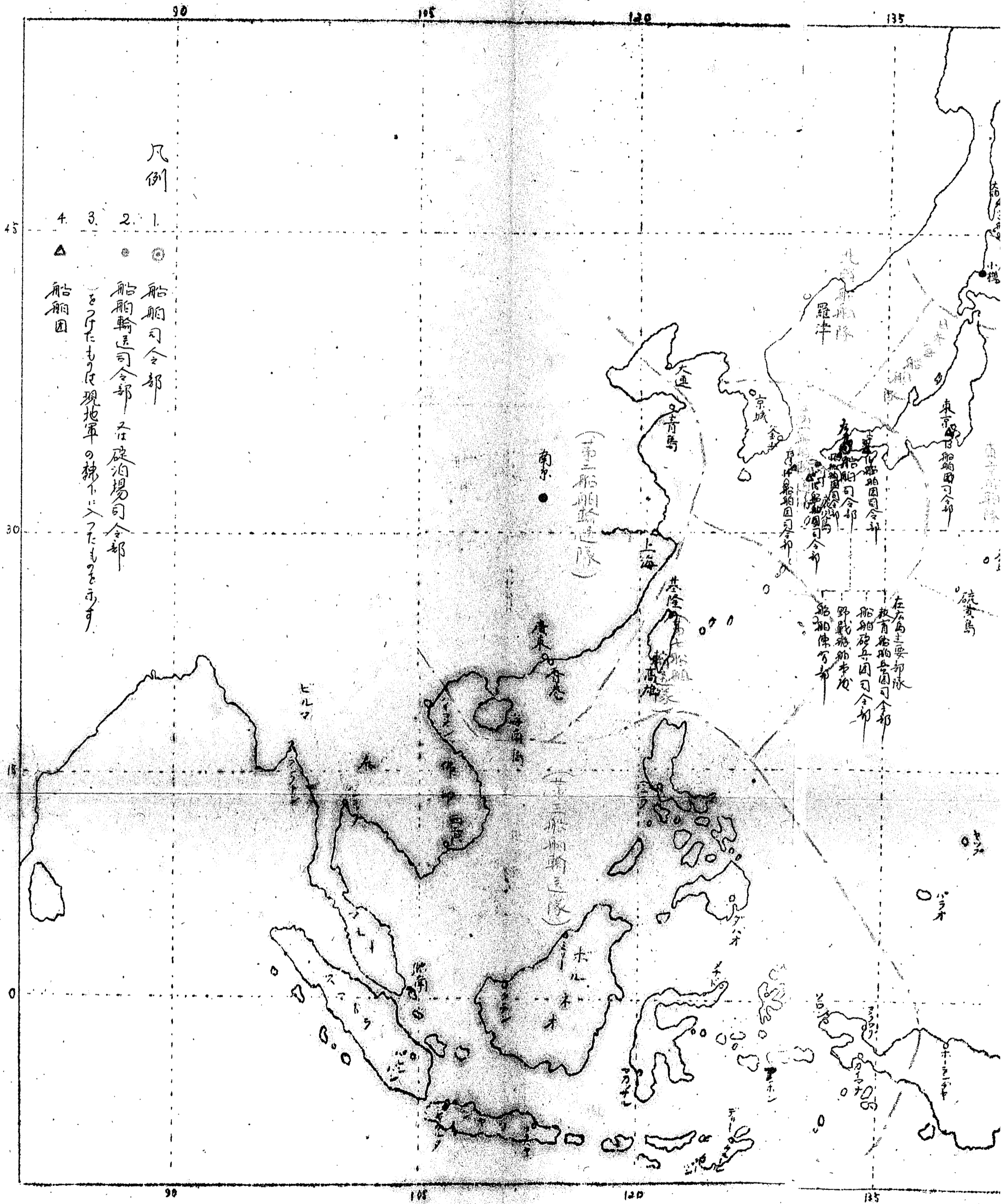
1636  
1637



其五

終戦前の輸送の態勢は満鮮の大陸物資と日本海及北九州方面に輸送強化に集中せられ特に北九州及北陸山陰に多量運揚後能力、港湾防衛の強化も促進せられたり

# 於 船 隻 部 隊 配 置 要 圖



1638

3006

三 款 今 次 戦 争

陸 軍

支那軍支  
末期及今  
次戦争  
準備

支那軍支末期

(はち)

援將心止註録作

(この)

支那軍支及

北部佛印進駐作戦が終ると上陸作戦も一段落の始りなり此頃

研究か

漸く考究せられ来るに及ぶ作戦の諸準備及諸編成問題の

上りも考慮せられるに至る。此れこれか本格的な課題と云つ

(後、あつていふからかといふこの漁羽の)

たのは日軍に進へる諸研究準備の結実生れん云は

派生的な問題の域と云ひなかつたを考へるの

か通ちであらう。即昭和十六年夏の呂宋特別進駐は第一

36-1

1639

上陸の要は、船に於ける揚陸の如何に迅速に行ふかの問題となつた  
 即ち相手飛行機、揚水船を有する近代戦艦の要海であるか  
 此の敵が上陸は到着の  
 上陸地附近に  
 夜明迄に  
 通くも  
 夜明迄に  
 は大型輸送船を解放しなればならぬ要請がなされ又其の  
 揚陸部隊は予想外に、艦隊上強んじて自動車部隊を  
 あり一般師団でも自轉車裝備を改<sup>編</sup>されることとなつたので  
 運の急ぐい工夫を必要とするに到つた。これから局勢に

揚陸資材に上り下り部材の編制 (左部P等のみも考慮) の  
 ことになつて  
 めくらされ、<sup>（諸）</sup> 従軍の碇泊場司令部と独工との共同思想  
 を改めその轄機関を<sup>（機）</sup> 4に統一、P=揚陸司令部と  
 (機中部隊に統合編成するもの)  
 設け、其の指揮機能を強化される。これと同様に<sup>（機）</sup> 3に  
 に使用される大十系動艇の数に基<sup>（機）</sup> して量的的の場機能の  
 増強の<sup>（機）</sup> 数個の独立工兵隊の<sup>（機）</sup> 増設<sup>（機）</sup> される<sup>（機）</sup> がある。  
 P=には防空甚経艇子自衛部材、及火器の増加を必要

36-3

1641

とし せん 艦 船 高 射 砲 掃 海 を 新 設 し た

第三に 予 想 せ ら れ た 戦 域 の 拡 大 を 使 用 艦 船 の 増 加 と し 艦

中 これ ら 相 応 す る 艦 船 通 信 部 隊 艦 船 工 作 廠 病 院 艦 御

生 理 学 の 新 設 又 は 勤 員 を 見 る

次に 昭 和 十 六 年 夏 七 月 部 隊 部 の 進 駐 を は じ め た 具 体 的 の

作 戦 準 備 期 間 は い ち 新 作 戦 の 基 地 と し て 野 上 ト シ 海 運

( 般 通 の 様 に )

地 の 開 闢 強 化 整 備 の 必 要 区 画 ま っ ち め し 艦 大 白 人 員 資 材

36-4

1642



の編成、派遣と必要とす。 をこころと遠 第三十二 砲台場

以下十七箇ト及ボ

司令部を動員し又各師団水上陸上各輸卒隊を改編の上

許す変更を行つて水上陸上、建築、中隊隊中隊等二十五箇

を増設し 也等と 切部師団 をは いぬ 海軍 の 台場 に 派

遣 し て 此等 の 作業 に 従事せしめると共に 此等 の 指揮 に 関

与 し て 第一 砲台場 の 部 を 臨時 に 編成し これ を 西 五 ヶ 所

お い ふ に これ が 後 の 第三 艦船輸送司令部である。

36-5

1643

尚公事却向の内には作戦後占領した地域の梅運地は配属

される予定の陸羽地方各都府及勤務隊が合算されたり

これにより別府ある区内地へ待機をせられ教育訓練の

志願部隊として<sup>モヤ</sup>合同社運上将来の道向を示されるいので熱意

倍々所を梅運地の援助を人市せられなりその梅運地を

も出が <sup>おまけ</sup>に <sup>かまふ</sup>て

は人並過剰の上ん素人 <sup>は</sup> 抱幸あかろう 厄介物扱ひなる

こそかまふかつん。

以上の様に支那軍渡来期に於て将来作戦の準備とて相る

36-6

1644

在規程に於ては擴張せられ各福吾様の(せりも附加せられ  
 へ行つたか編輯と(は)根本的の控計か加へられず(又)且  
 事變の規程を大きくしたと云ふに過(ない)かその(海運地整)緯は上陸初(只)の(規)

用の見地及事變の而方各地に於ける(海運地整)作戦(只)指揮の上から(只)

生(只)の(規)又必要と云ふを得ず(只)生れんと云ふに止まつて(只)可(只)子(只)確

(只)運用、

固(只)る(只)初(只)員(只)神(只)意(只)教(只)育(只)身(只)の(只)体(只)系(只)の(只)整(只)備(只)も(只)理(只)之(只)も(只)なく(只)只、

新(只)地(只)々(只)と(只)大(只)兵(只)を(只)擲(只)て(只)残(只)軍(只)を(只)定(只)入(只)て(只)行(只)つ(只)た(只)と(只)云(只)ふ(只)被(只)の(只)保(只)い

36-7

1645